



この街が好きだから

武蔵野スケッチ物語

絵と文
大須賀一雄

91

見慣れた風景も、絵になるとちょっと違う趣が出てきます。

そんな武蔵野の風景を、大須賀一雄さんが春夏秋冬で切り取って描きます。

境二丁目にて

おかげさまで、連載中のスケッチ物語は今回で91回を迎え、目標の100回に手が届くところになってきたと思っている。

武蔵野市は緑が多く、また街並みが整っているのので、スケッチポイントに恵まれていて、現場主義の私にとっては、とても素敵な街だと思っている。私は写真を撮ってきて家で描くということはしないので、いつも天気の様子を見ながら、出掛けることにしている。

一年中で野外スケッチは、寒い冬場を除けば日中ならいつでも可能なのだが、トイレのことなども考えながら決めているので、どこでもよいということでもない。また、冬は日照時間が短いので、できるだけ午前中から描くことにしている。

絵が完成した後の楽しみは、喫茶店で飲むコーヒーで、絵に集中していた気分を一気に和らげてくれるので、とてもありがたいと思っている。これからも元気なうちは、野外スケッチを楽しんでいきたいと考えている。

大須賀一雄（おおすか・かずお） 水彩画家。1937年群馬県出身。武蔵野市在住。画材は透明水彩。元JR東日本国際課勤務。JR東日本絵画クラブ初代事務局長。これまでJR東日本の駅の絵を1000点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどでも紹介されている。著書は『あなたの街の駅物語』（日貿出版社）、『スケッチお手本帖』（素朴社）、『透明水彩の世界・ヨーロッパ』および『緑』（旅もようスケッチ会）ほか。2022年まで、JR東日本の大人の休日倶楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで50カ国以上を訪れ、個展も30回を超える。